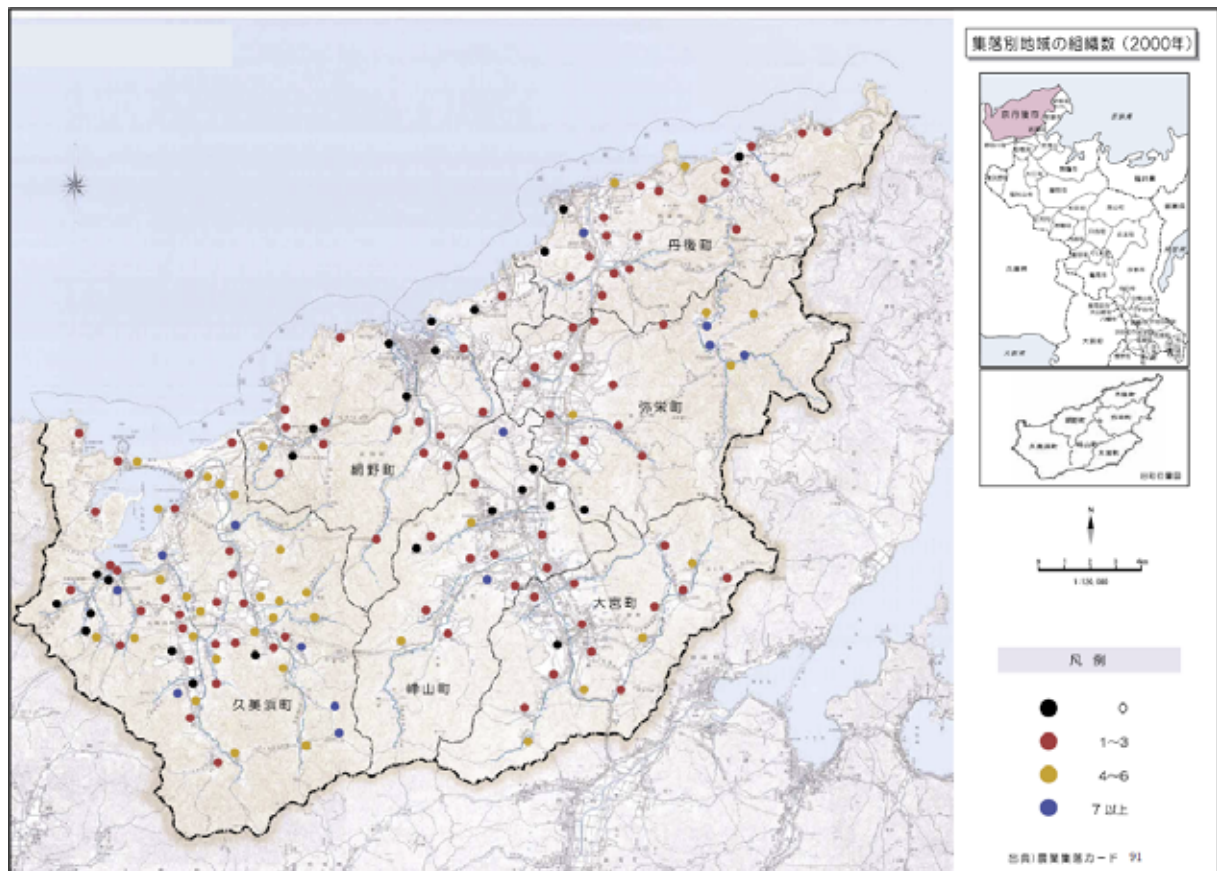


地域の組織数図面



京丹後市の鳥獣被害状況

平成 10 年から平成 14 年の農作物被害面積は増加傾向にあり、特に平成 13 年、14 年で急増している。平成 10 年では 102ha であった被害面積が平成 14 年では 476ha と約 4 倍に増えている。動物別では、イノシシによる被害が最も多く、次にシカ、カラス、タヌキ、ヌートリアとなっている。作物別では、水稻の被害が最も多く、次に豆類の被害が多い。また、有害鳥獣の捕獲実績も年々増加している。

表 2-60 鳥獣による農作物の被害状況

鳥獣類名	農作物名	被害面積（単位：a）				
		H10	H11	H12	H13	H14
サ ル	豆類	250	230	250	250	210
	いも類	250	230	250	230	210
	野菜類	700	640	500	600	550
イノシシ	水稻	1,093	1,320	1,459	2,570	6,941
	豆類	162	202	355	459	5,018
	野菜類	183	232	195	12	2,065
	いも類	392	473	534	1,621	811
	飼料作物	108				
シ カ	水稻	990	1,379	1,389	2,545	6,740
	豆類	318	444	522	350	3,195
	野菜類	351	493	560	4,035	2,115
	檜苗木	250	250	300	200	50
	飼料作物	72				
	いも類	17	24	21	2,360	780
	葉たばこ				720	
タヌキ	水稻					2,625
	豆類			10	220	2,625
	いも類	101	119	146		760
	野菜類	330	344	669	1,080	1,580
	果樹類	41	51	58		
ク マ	果樹類	103	198	170		358
ヌートリア	水稻			760	600	1,877
	野菜類			179	300	600
	豆類					600
ヒヨドリ	野菜類	104	100			
カラス	水稻	200	213	190		
	豆類	20	24	27	27	27
	野菜類	576	623	851	296	860
	果樹類	3,440	3,645	3,113	836	6,988
ハ ト	豆類	115	118		504	4
	野菜類	13	15		2	
合計		10,179	11,367	12,508	19,817	47,589

資料：振興局集計

表 2-61 有害鳥獣捕獲処理を目的とした捕獲実績

	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	合 計	H11	H12	H13	H14	H15	H16
カラス	139	44	76		102	18	379	285	249	292	305	281	414
ドバト	2	4					6	23	11	3	16	12	12
コサギ	5						5		17	30	39	14	11
アオサギ	12						12		21	29	42	39	18
鳥類小計	158	48	76	0	102	18	402	308	298	354	402	346	455
イノシシ	31	36	176	21	10	187	461	118	204	209	243	333	419
オスジカ	21	12	33			106	172	75	100	103	118	144	133
メスジカ	11	4	25			66	106	46	69	59	91	109	81
タヌキ		4	34	2		31	71	13	14	27	71	54	55
サル				9			9		1	6	16	5	7
ヌートリア	8		29	6	4	43	90		31	63	29	62	28
クマ						4	4	3	4		1	8	6
テン							0	7				1	
獣類小計	71	56	297	38	14	437	913	262	423	467	569	716	729
合 計	229	104	373	38	116	455	1,315	570	721	821	971	1,062	1,184

注：クマ4匹は放獣

平成 17 年 11 月 25 日現在

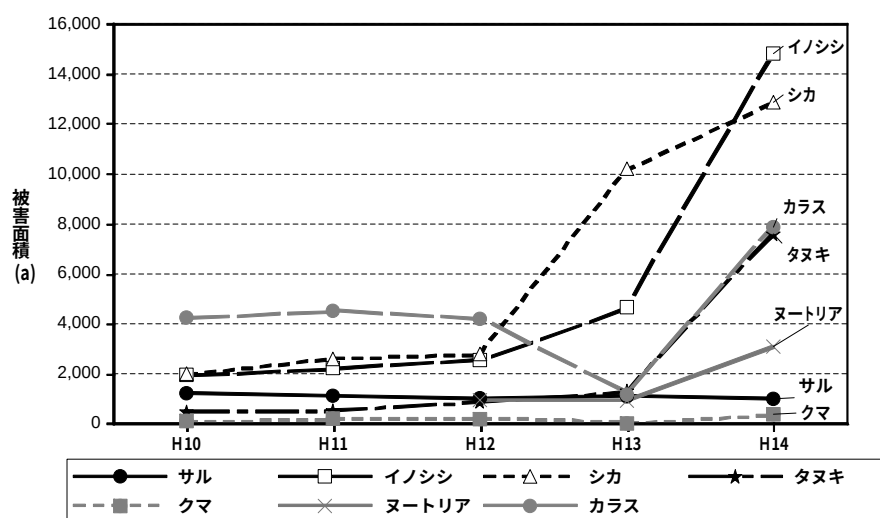


図2-33 動物別農作物被害状況

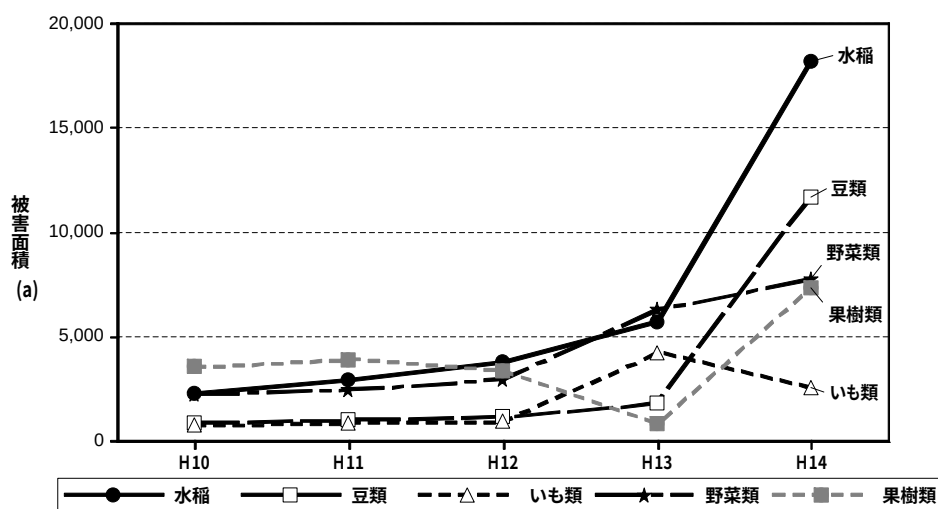


図2-34 作物別農作物被害状況

(5) 京丹後市の自給率

平成14年の京丹後市の食料自給率は79%となっており、日本全体の40%、京都府全体の13%と比較して高い水準を維持している。平成7年では93%であり、7年間で14%減少している。町別でみると、久美浜町と弥栄町では100%を超えているものの、その他の町では100%を切っている。6町では網野町の食料自給率が低く、平成14年で44%となっている。

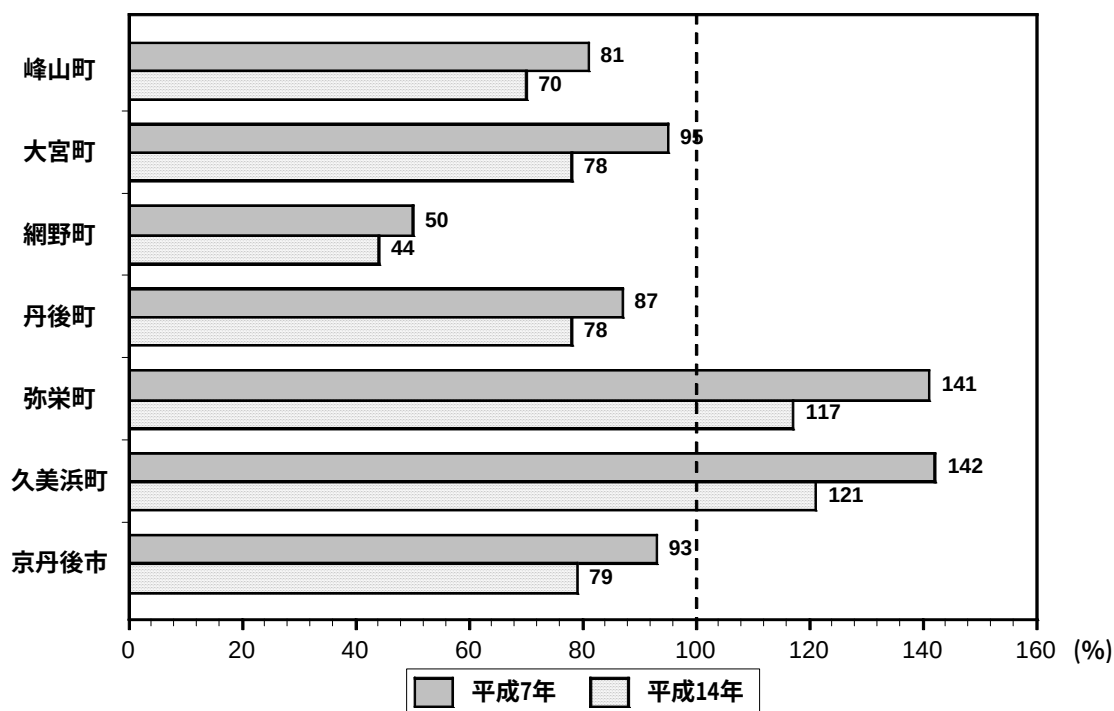


図2-35 地域自給率

農林水産省 地域食料自給率試算ソフト

(<http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyu/jikyu041.htm>) より計算

(6) 丹後国営農地開発事業の概要

丹後は、稲作農業を中心に丹後ちりめんを主とする織物産業を生活の基盤として発展してきた地域である。

しかし、経済発展の中で農業所得の相対的な低下が大きく、過疎化に加えて織物業の不振に悩んでおり、地域の活性化が課題となっている。

そこで、21世紀に向けて豊かな丹後地域の開発をすすめ、新しい農業を拓こうと国営農地開発事業が推進され、低未利用の山林・原野を水田の区画整理と一体となって開発し、畑地を造成して経営規模の拡大と農地の集団化を図り、併せて道路網の整備や水源の確保を実施して、生産性の高い農業経営の実現を目指している。

この農地開発は、事業着手以来、20年間の歳月と562億円を投じた事業が平成14年度に完工し、新規開発畑690ha 区画整理134haが新たに造成され、丹後地方の畑作農業の展開が見込まれている。

表 2-62 事業の概要

工 種		事 業 概 要		
		全 体	東 部 地 区	西 部 地 区
農 地 造 成		690.0ha	517.6ha	172.4ha
区 画 整 理		133.9ha	106.2ha	27.7ha
道 路	幹 線 道 路	18.4km	17.4km	1.0km
	支 線 道 路	46.4km	30.7km	15.7km
防 災 施 設	沈 砂 地	160 箇所	119 箇所	41 箇所
水 源 施 設	貯 水 池	24 箇所	17 箇所	7 箇所
	井 戸	17 箇所	10 箇所	7 箇所
	溪 流 取 水 工	20 箇所	17 箇所	3 箇所
	送 水 路	49.6km	37.5km	12.1km
	揚 水 機	54 箇所	36 箇所	18 箇所
畑 地 かんがい施設	ファームポンド	46 箇所	33 箇所	13 箇所
	ほ 場 配 管	512.3ha	382.4ha	129.9ha
工 種	丹後東部地区 昭和58年度～平成14年度			
	丹後西部地区 昭和59年度～平成12年度			

資料：丹後国営農地開発事業の概要パンフレット

(7) 基盤整備状況

平成 17 年現在の本市の基盤整備状況は、水田が 51.3%、畑が 47.4%となっている。

なお、旧町別の平成 16 年現在の基盤整備状況を以下にまとめる。

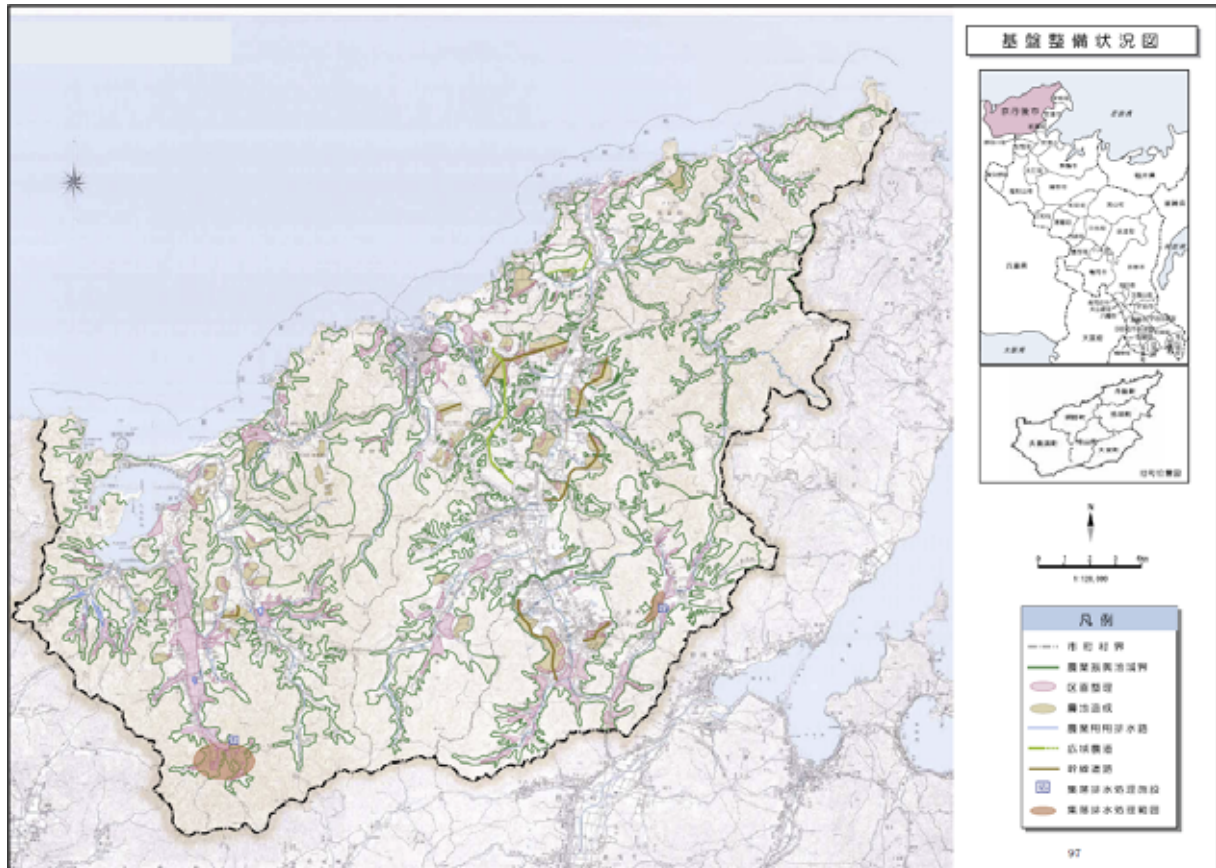
また、次ページに基盤整備状況図を添付する。

表 2-63 旧町基盤整備状況一覧（平成 16 年現在）

旧町名	水田	畑
大宮町	81.0%	49.1%
峰山町	45.2%	45.9%
弥栄町	32.3%	72.1%
丹後町	39.2%	—
網野町	91.3%	95.1%
久美浜町	79.7%	0%

資料：農業農村整備事業管理計画書

基盤整備状況図



(8) 農業に関する市内での活動等

丹後町袖志の棚田では、田の一角を利用し、有機無農薬と手作業による赤米とコシヒカリの米づくりを平成 12 年から行っており、平成 17 年度は町内の宇川小学校 5 年生の児童による田植えや稲刈りなどが行われ、児童への食農教育に貢献している。

その他にも川上小学校で児童の稲作り体験などが行われており、これからの京丹後市を担う子供達への食や農業に関する教育の積極的な取り組みが望まれる。



図2-36 小学生作成の看板



図2-37 栽培されている赤米

(9) 農業の多面的機能

農業は洪水防止機能、水源涵養機能、自然環境保全機能など様々な多面的機能を有しており、我々の暮らしにとって欠かせないものとなっている。また、自然体験の豊富な子供ほど道徳観や正義感が身に付いているアンケート結果も出ており、農業や自然が子供達に何らかの影響を与えていると考えられる。

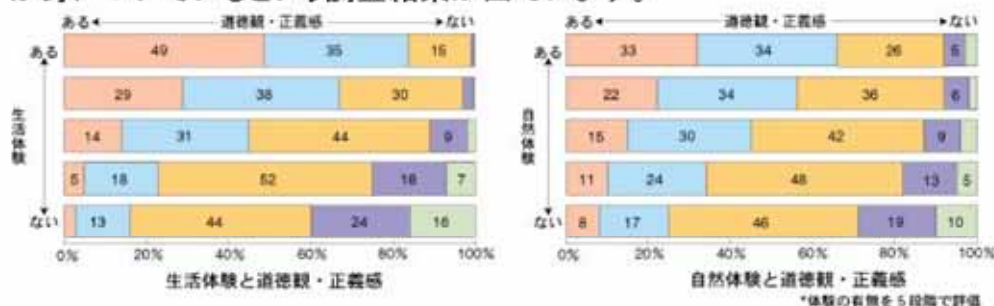
表 2-64 農業の多面的機能

洪水防止機能	水田は、あぜにより雨水を一時的に貯えることができ、雨水の急激な流出が防止され、下流での洪水や周辺での浸水が防止・軽減されるという機能がある。その他にも、地すべり、土砂崩れなどの発生を抑える機能もある。
水源涵養機能	水田に貯えられた水は徐々に浸透して地下水となり、人間の生活に必要な水源を豊かにする機能や川の流れを安定させる機能もある。また、収穫後の水田や畑も雨水の地下への浸透によって、地下水のかん養に役立っている。
自然環境保全機能	生ゴミや家畜の排せつ物などの有機性廃棄物は、たい肥化されて田畑に還元され、資源として有効に利用される。水田や畑のバクテリアなどの微生物は農地の耕作を通じて、有機物を分解して植物が吸収できるようにしている。この他、田畑やため池が多様な生物の生息の場所になるなど、自然環境の保全に大きく貢献している。
良好な景観の形成機能	農村で農業が営まれることで、田んぼなどの景観が維持・保全されているが、これらの景観は、その地域の住民や訪れる訪問者の美的感覚や心に訴えかけ、人の心をなごませる働きをしている。
文化の伝承機能	農村では、長い歴史を通じて農業が営まれることによって伝えられてきた、自然の恵みに感謝し、あるいは災害を避ける願いを込めて行われる芸能・祭り、様々な農業上の技術、地域独自の様々な知恵などの文化が守り伝えられている。
保健休養機能	きれいな水、澄んだ空気、美しい緑、都市では見られない景観や自然、環境、そして潤いや安らぎを求めて、農村に多くの人々が訪れている。 都市に住む人が農家民宿に泊まって農業を体験したり、農村の文化・自然にふれたり、農村での人と人とのふれあい人と人との交流が今人気になっている。
地域社会の維持活性化	お米や野菜などの農作物を中心に、市場への運搬、漬物や缶詰への加工、お店での販売などたくさんの仕事が営まれ、生き活きた地域社会が育まれている。
食料安全保障	農産物は冷害や干ばつなどの気象条件に左右されやすくとても不安定なものである。そして今でも世界では10人に1人が明日食べるものにも困っているという現状がある。このような中、この限りある地球の資源を有効に活用しながら世界の人たちと共に生きていくためには、「大地の恵みを大切に、自分の国で作れる食べ物はできる限り自分で作る」という考えを共有することが必要である。

出典：農林水産省ホームページより

豊かな体験は子どもたちにとって大切です

生活体験や自然体験の豊富な子どもほど、「友達が悪いことをしていたら、やめさせる」「バスや電車で席をゆずる」などといった道徳観や正義感が身についているという調査結果が出ています。



【生活体験】…「小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと」
「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」ほか

【自然体験】…「チョウやトンボ・バッタなどの昆虫をつかまえたこと」
「海や川で貝を取ったり、魚を釣ったりしたこと」ほか

文部省「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」(平成10年12月)より

図2-38 子供の体験活動等に関するアンケート調査

出典：文部科学省ホームページ報道発表資料より

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/11/04/990406i.htm

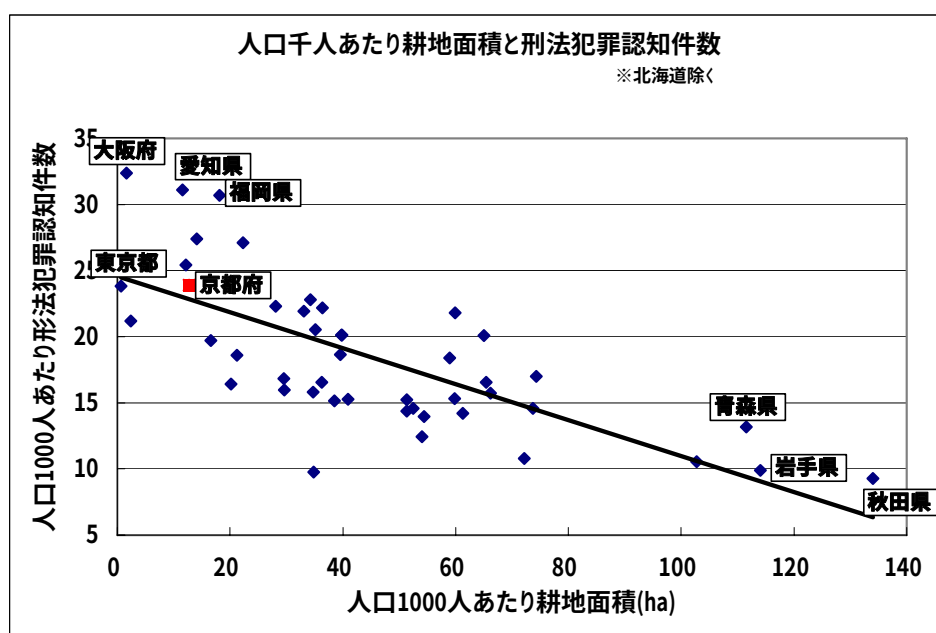


図2-39 人口千人あたり耕地面積と刑法犯罪認知件数

データ) 刑法犯罪認知件数：警察庁刑事局刑事企画課 H15

耕地面積：農林水産省大臣官房統計部生産流通消費統計課「耕地及び作付面積統計」H15

人口：平成17年国勢調査

2.1.5 既存アンケート結果（20 歳以上）の整理・分析

（１）調査概要

本市合併前の第 3 回合併協議会（平成 14 年 7 月 24 日）配付資料に含まれていた「新しいまちの建設計画策定のための住民意識調査結果報告」より、地域の現状及び将来に関する住民の意向を把握する。同意向調査の調査概要は以下のとおりである。

- 調査目的

6 町の将来の方向性や地域の現状、合併に対する意識等について、住民の方々の意向を把握し、合併の協議・検討や建設計画策定のための基礎的資料を得ることを目的として、一般意識調査を実施した。

- 実施概要

実施にあたっては、6 町全体、各町別、年代別の傾向等を把握するため、次のとおり人口比や年齢構成比等を勘案し、各町の住民基本台帳をもとに無作為に抽出、郵送により配布、回収を行った。

	峰山町	大宮町	網野町	丹後町	弥栄町	久美浜町	備 考
人 口	13,564	10,805	16,056	7,164	6,132	11,857	65,578 H12国調人口
配布数	1,450	1,140	1,710	780	640	1,280	7,000

調査日：平成 14 年 5 月（5 月 15 日発送、5 月 27 日締め切り）

配布回収状況

配布数：7,000 票

有効回収数：3,251 票

回収率：46.4%

(2) まちの現状評価

【設問】現在のあなたのまちの現状について、どのように感じていますか。下記の各項目についてその満足度を1~5のうちから1つだけ○を付けて下さい。

現状の評価の分析にあたっては、評価を平均得点化して、順位付けを行っている。平均得点化はそれぞれの回答割合について、「大変満足×(+1.0)」「やや満足×(+0.5)」「どちらともいえない×(±0.0)」「やや不満×(-0.5)」「大変不満×(-1.0)」の合計値として算出している。

全体では、「公民館、集会場等の身近なコミュニティ施設の充実」、「安全対策・体制の推進・強化」を除くすべての項目が、マイナスポイントとなっている。

特に、以下の項目で評価が低くなっている。

- ・工業の振興や地域内での雇用の場の確保（- 0.52）
- ・地域外との行き来が便利になるような幹線道路網の整備（- 0.32）
- ・公共交通の充実（- 0.32）
- ・農林漁業の振興（- 0.29）

雇用に関してはアンケートの他の設問でも注目が高く、雇用状況の厳しさがうかがえる。農林漁業についても産業振興の一つの課題と考えられていると思われる。

また、「リサイクルの推進など、環境活動の強化」（- 0.02）に関しては、中間的な数値を示しており、「満足も不満もない」か「無関心」のいずれかの状況を示していると考えられる。

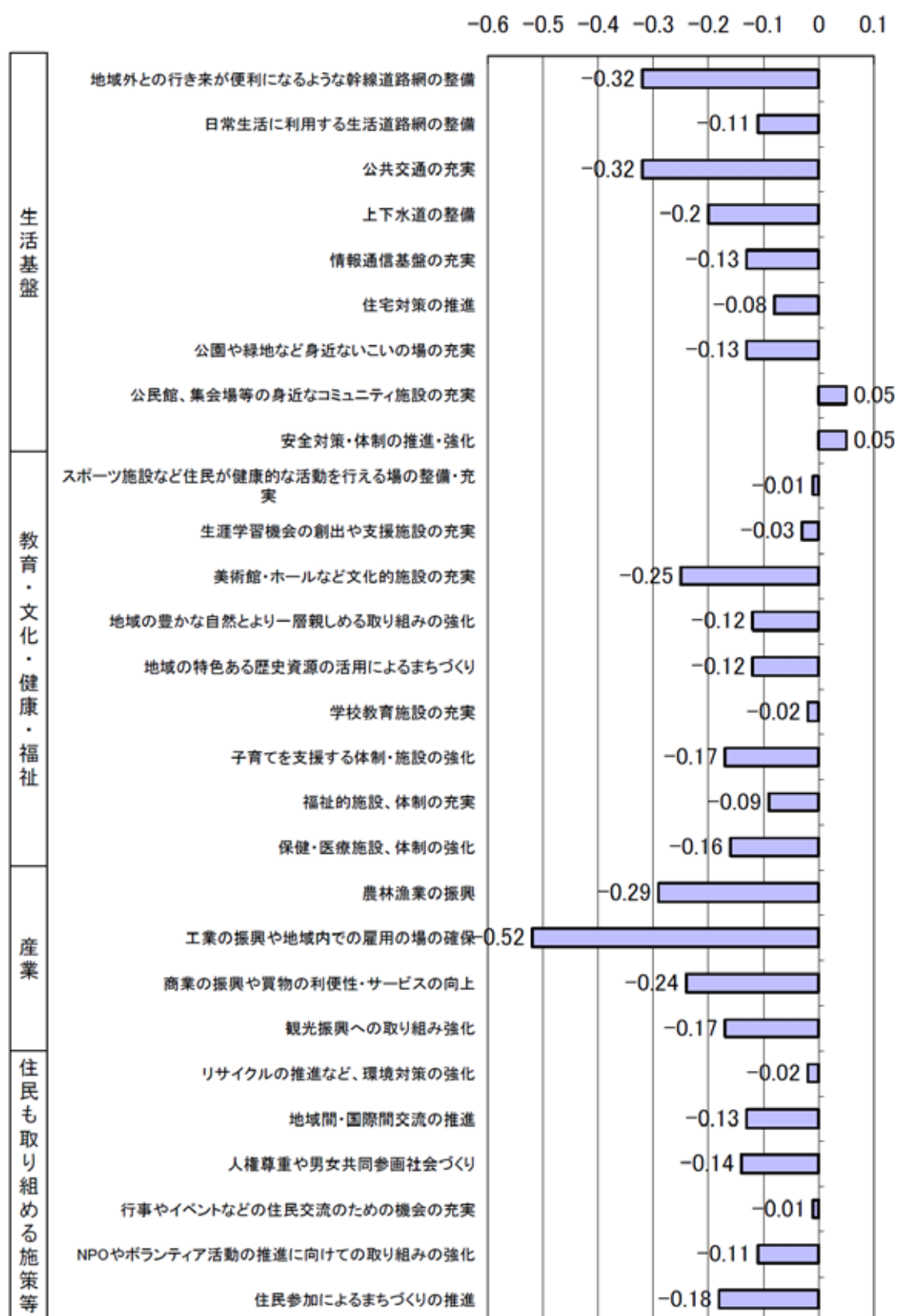


図2-40 既存アンケート結果（20歳以上）：まちの現状評価

(3) 地域の将来像

【設問】丹後6町は将来的にどのようなまちになっていけばよいと思われますか。以下の中から4つ以内で○を付けてください。

「工業・商業・サービス業などが活発で、働く場に恵まれた産業のまち」（選択率 55.1%）、
「海岸や海浜などの美しい景観や水・緑を生かした自然豊かなまち」（52.5%）への意向が高く、50%以上の割合を示している。

これに対して、「自然と調和した農林漁業が活発なまち」（18.8%）、「ゴミ減量やリサイクル活動など、環境問題に積極的に取り組むまち」（16.3%）への回答率は低く、市民の環境への意識としては、人の手の余り入っていない天然の自然環境をより重視していることが推察される。



図2-41 既存アンケート結果（20歳以上）：地域の将来像

町別では、「工業・商業・サービス業が活発で働く場に恵まれた産業のまち」が峰山町（62.6%）及び大宮町（54.1%）で最も高くなっている。網野町でも60%以上を占め、各町で高い割合を示している。

網野町、丹後町、久美浜町では「海岸や海浜などの美しい景観や水・緑を生かした自然豊かなまち」が最も高く、海浜を擁し自然に恵まれた地域の特性を反映している。

(4) 将来望まれる施策

【設問】また、丹後6町の将来のまちづくりをすすめるにあたって、どのような施策が重要だと思われますか。重要とお考えになる項目について5つ以内で○を付けてください。

「工業の振興や地域内での雇用の場の確保」(49.2%)が最も高く、続いて「地域外との行き来が便利になるような幹線道路網の整備」(42.1%)、「福祉的施設、体制の充実」(34.5%)、「保健・医療施設、体制の強化」(34.5%)といった項目が高い割合を示している。

「工業の振興や地域内での雇用の場の確保」が高い回答率を得ていることに関連して、各産業の振興に対する回答率を以下に比較する。

- ① 工業の振興や地域内での雇用の場の確保 (49.2%)
- ② 農林漁業の振興 (18.1%)
- ③ 商業の振興や買い物の利便性、サービスの向上 (13.6%)
- ④ 観光振興への取り組みの強化 (13.2%)

上記の①に関しては「雇用の場の確保」という文言で多くの回答を集めていると考えられるが、②～④を比較すると「農林漁業の振興」が若干を多く、農林漁業への期待も少なくないが、反面、大きな差がないということは、際だって期待される産業がないということも示していることも想定される。

「地域の豊かな自然とより一層親しめる取り組みの強化」(12.2%)については、比較的低い回答率に留まっており、現状でも豊かな自然に身近にふれあえている環境を反映していると思われる。

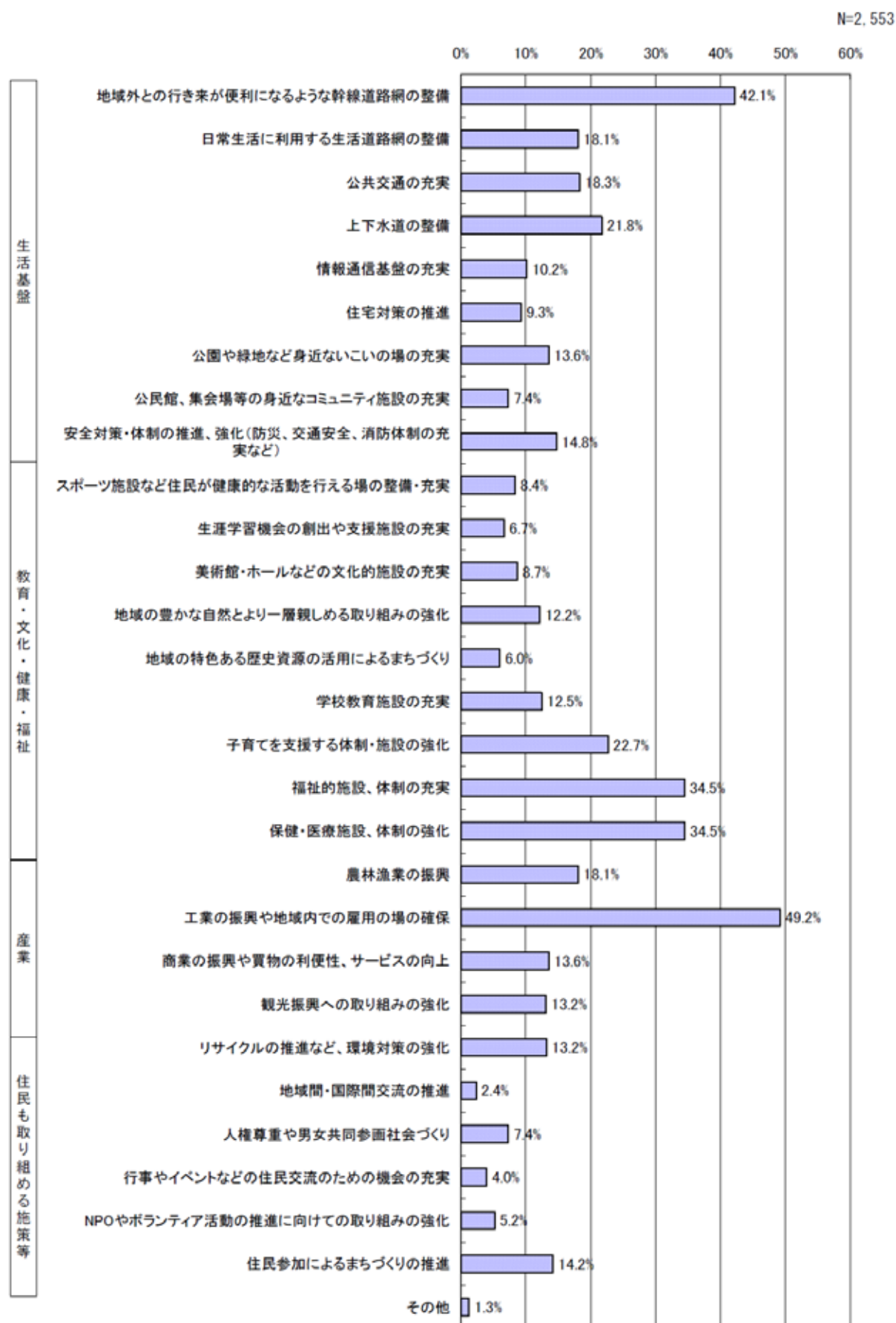


図2-42 既存アンケート結果（20歳以上）：将来望まれる施策

2.1.6 既存アンケート結果（高校生）の整理・分析

（１）調査概要

先の項目で「新しいまちの建設計画策定のための住民意識調査結果報告」より、地域の現状及び将来に関する住民の意向を把握したが、本項目では、一般意識調査を補足し若い世代の意向の把握とアイデアを募る目的で実施された、同調査の高校生調査部分を分析する。

調査概要は以下のとおりである。

- 調査目的

一般意識調査を補足し、若い世代の意向の把握とアイデアを募る目的で、高校生調査を実施した。

- 実施概要

調査にあたっては、丹後地域内、府立峰山高等学校、府立網野高等学校、府立久美浜高等学校の協力を得て、6町内にお住まいの高校最終学年の方々を対象とした。

- 回答結果概要

- ・ 調査時期：平成14年5月

- ・ 配布、回収状況

配布数：685 票

回収数：659 票（峰山高校：299 票、網野高校：235 票、久美浜高校：125 票）

回収率：96.2%

(2) 定住意向

【設問】将来、社会人になったり、結婚したりした時に、6町内に住みたいと考えていますか。

全体では、「わからない」が54.7%で最も多くなっている。「丹後6町内に住みたい」は18.3%、「丹後6町内に住みたくない」が27.0%と、6町外での生活を希望する人が多くなっている。

町別では、「わからない」が全ての町で50%を超えている。久美浜町では「6町内に住みたい」が25.5%と他町に比べ高く、「6町内に住みたいと思わない」22.7%を上回っている。これに対して丹後町では、「住みたい」が11.1%、「住みたいと思わない」が36.5%で、定住意向が低い。

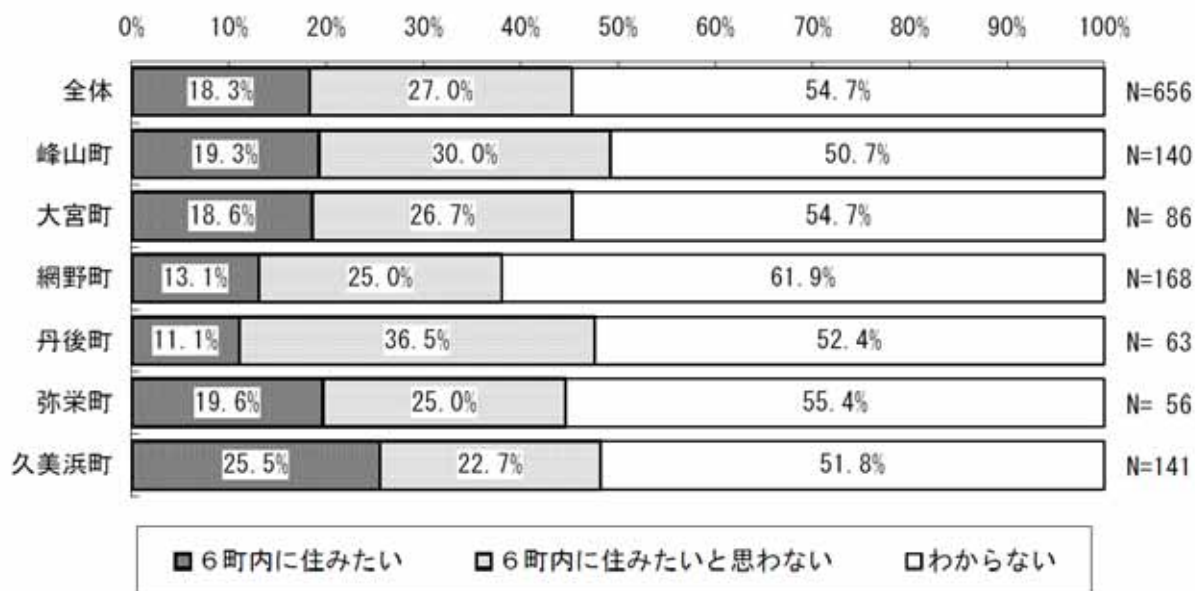


図2-43 既存アンケート結果（高校生）：定住意向

(3) 地域の将来像

【設問】丹後の6町は将来的に、どのようなまちになっていけばよいと思いますか。あてはまるものを4つ以内で○を付けてください。

全体では、「海岸や海浜など美しい景観や水や緑を生かしたまち」(64.8%)が特に高くなっている。

続いて、「住まいや身の回りの環境が充実した快適に暮らせるまち」(31.6%)、「高齢者や障害のある人などすべての人が安心して暮らせるまち」(28.2%)、「工業・商業・サービス業などが活発で、働く場に恵まれたまち」(27.3%)が約3割の選択率となっている。

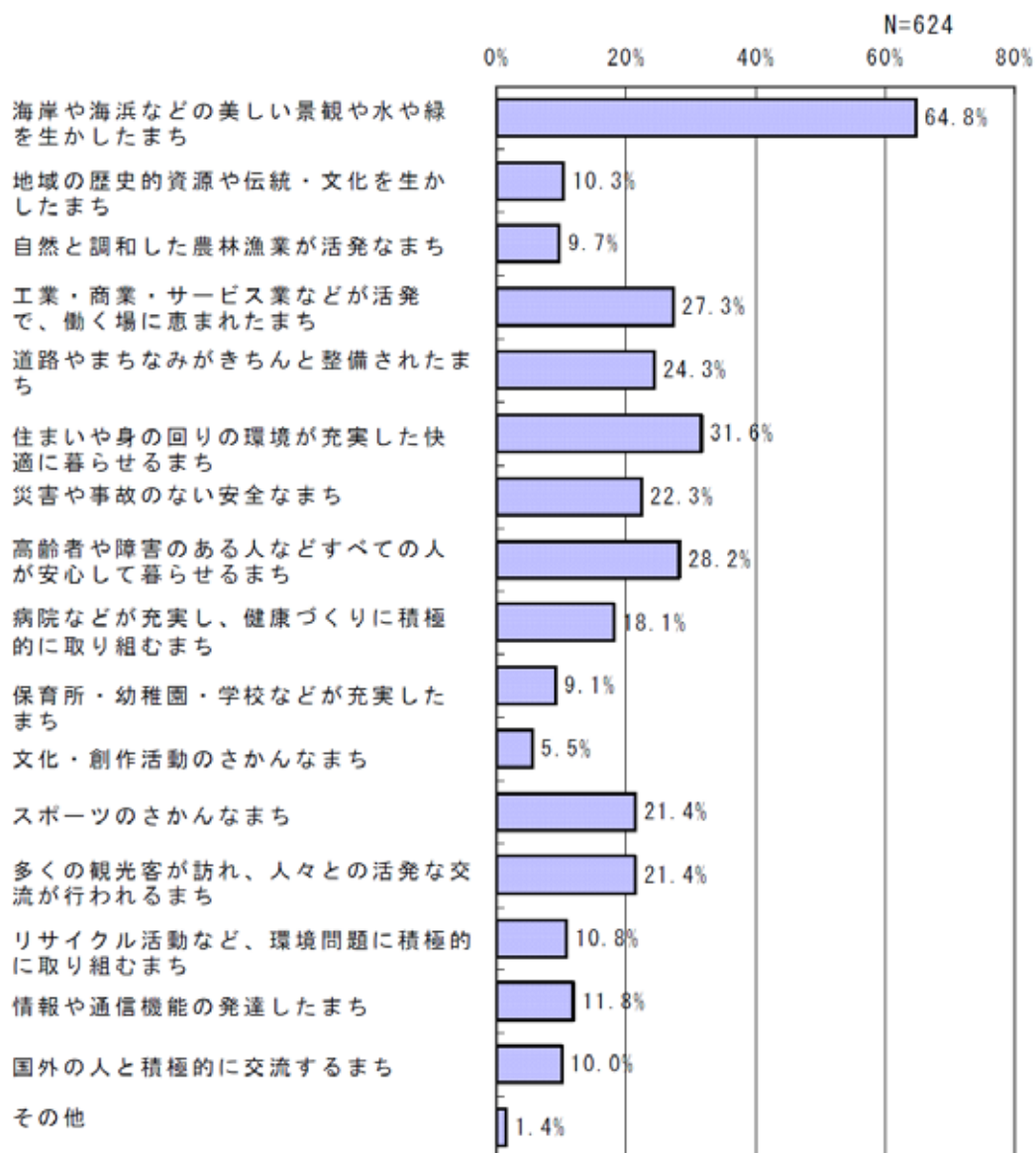


図2-44 既存アンケート結果（高校生）：まちの将来像

一般意識調査と高校生意識調査の双方の結果を比較してみると、高校生の方が特に高い割合を示した項目として、「海岸や海浜などの美しい景観や水や緑を生かしたまち」「住まいや身の回りの環境が充実した快適に暮らせるまち」「スポーツ活動の盛んなまち」があげられる。

その中で、「海岸や海浜などの美しい景観や水や緑を生かしたまち」「スポーツ活動の盛んなまち」については、一般意識調査において、最も若い世代である 20 歳代の選択率が高い項目でもあり、今後地域を担う若い世代が特に重視する項目として位置づけられる。

「自然と調和した農林漁業が活発なまち」への回答は、高校生で 9.7%、一般で 18.8%となっている。また、「ごみ減量やリサイクル活動など、環境問題に積極的に取り組むまち」では高校生 10.8%、一般 16.3%となっており、産業や生活に関連した環境への意識は一般の方が高い。

(4) 将来望まれる施策

【設問】丹後の 6 町において、将来的にどのような施策や取り組みを行って欲しいですか。あてはまるものについて 5 つ以内で○を付けてください。

全体では「買い物や食事が楽しめる商業施設の充実」(64.5%)と「鉄道やバスなどの利便性の向上」(59.7%)が突出して高い割合を示している。次いで「スポーツ施設などみんなが健康的な活動を行える場の充実」(38.8%)となっている。

「リサイクルの推進など環境対策の強化」(13.3%)は一般の回答率 13.2%とほぼ同じ割合で、「地域の豊かな自然と、より一層親しめる取り組みの強化」(15.8%)は一般の回答率 12.2%よりも若干高い。

一般で最も回答が多かった「工業の振興や地域内での雇用の場の確保」(49.2%)に対して、高校生対象の「働く場の創出」(28.3%)では 20%程度低い値を示している。

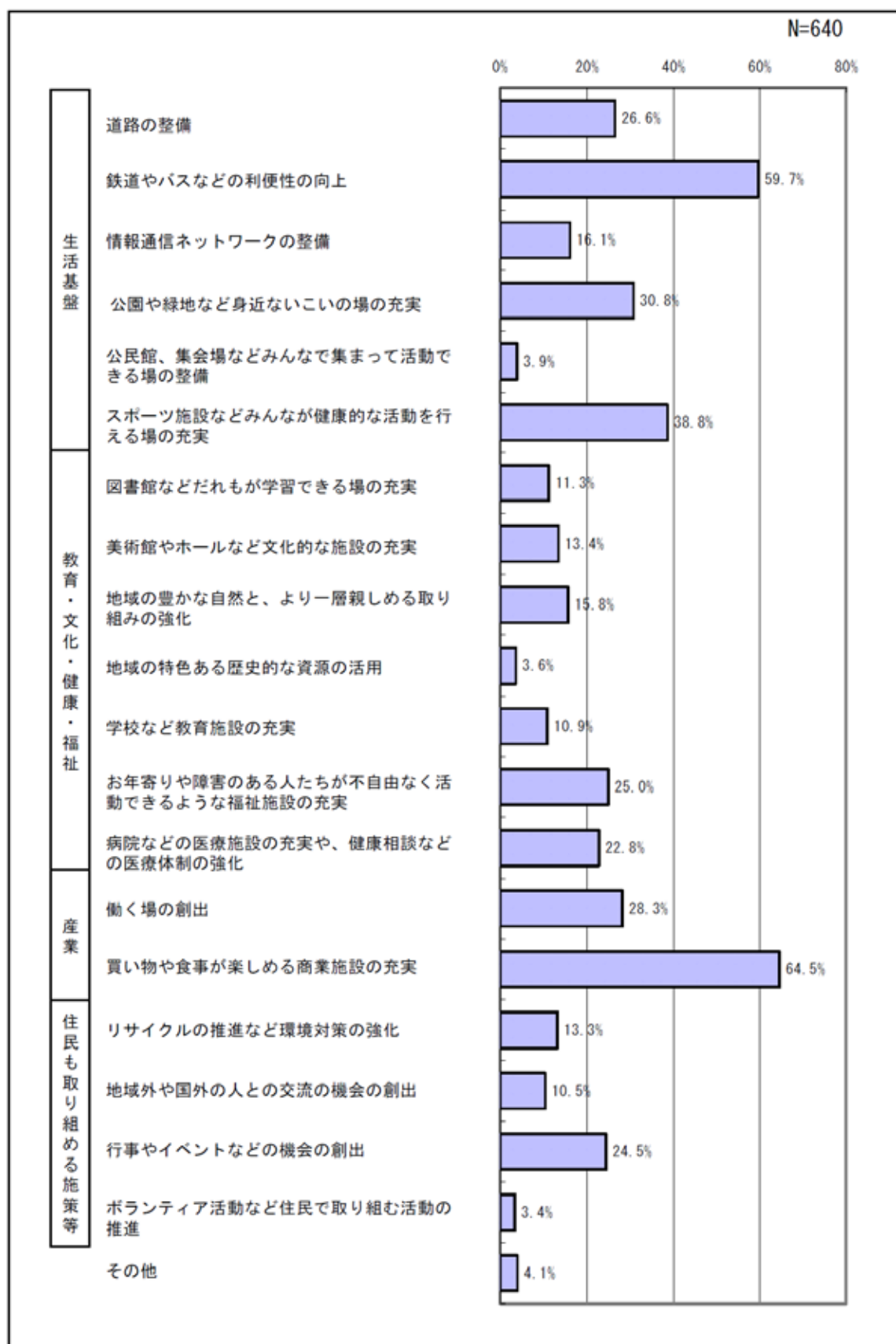


図2-45 既存アンケート結果（高校生）：将来望まれる施策

(5) 地域の自慢と誇り

【設問】あなたの住む町で、自慢できるものや好きな場所、他にはない特色などがあれば、具体的に書いて下さい。

自慢できるものや好きな場所、他にはない特色として、337 人から意見が出された。その傾向は以下のとおりである。

表2-65 既存アンケート結果（高校生）：地域の自慢と誇り

分 類	票 数	割 合
自然全般	49	14.5%
海	127	37.7%
山・緑・川等	40	11.9%
特定地名	74	22.0%
特定施設名・施設等	40	11.9%
食物・特産物・行事等	35	10.4%
その他 (人柄・人情・雰囲気等)	68	20.2%
記入者合計	337	100.0%

■ 自然環境

「海」、「山・緑・川等」を含め、意見の 6 割以上が自然環境に係る意見をあげており、まちの将来像に関する設問とあわせ自然環境への関心の高さは注目される。

具体的には天然記念物である「琴引浜の鳴き砂」が特に多く、また、「琴引浜」に加え、「久美浜湾」等の海岸部の意見が多くなっている。また、山・緑・川等に関しては大宮町の「ブナ林」や「新庄の滝（霧降の滝）」などの回答が複数得られた。この他には、夕日や雪景色といった四季折々の景色のほか、「星」、「夜空」といった回答もみられた。

- ・ 鳴き砂 (19 人)
- ・ 琴引浜 (7 人)
- ・ 久美浜湾 (4 人)
- ・ ブナ林 (4 人)
- ・ 夕日 (2 人)
- ・ 星・夜空 (3 人) 等

■ 特定地名・特定施設名・施設等

特定地名や施設名、施設等としては、観光的施設が特に多くあげられた。

個別の施設では、「丹後あじわいの郷（弥栄町）」や「森林公園スイス村（弥栄町）」といっ

た地元の自然や一次産品を活用した施設があげられた。また、「天女の里（峰山町）」や「小野小町（墓・公園）（大宮町）」など地域の歴史にちなんだ施設もあげられた。

このほか、地域内に多く分布する温泉に多くの回答が得られた。

- ・ 丹後あじわいの郷（5人）
- ・ 森林公園スイス村（4人）
- ・ 天女の里（2人）
- ・ ブナ林（4人）
- ・ 小野小町（墓・公園）（5人）
- ・ 温泉（9人）等

また、地名そのものを自慢、誇りとする意見もみられ、その中でも「甲山（久美浜町）」が最も多い回答を得られた。

- ・ 甲山（8人）
- ・ 丹後大宮という駅名（1人）
- ・ 峰山という町名（1人）等

このほか、地元の住民が利用する施設、特に「峰山球場」、「峰山途中ヶ丘公園」の回答が多く得られた。また、「図書館」や「文化施設」にも複数の回答が得られている。

■ 食物・特産物・行事等

食物としては、「カニ」の意見が特に多く、また、カキにも複数の意見があげられるなど、地域の海産物にちなんだ意見が多くあげられた。

また、地域の主要産業である「丹後ちりめん」が複数あげられている。

行事については、「ドラゴンカヌー選手権」が最も多かったが、「秋祭り」も複数あげられるなど、新旧の行事にわたっている。

- ・ カニ（11人）
- ・ カキ（4人）
- ・ 丹後ちりめん（3人）
- ・ ドラゴンカヌー選手権（6人）
- ・ 秋祭り（3人）

■ その他

その他として、「近所付き合い」や「まちの人の人柄」、「人情」、「知らない人に挨拶できる気質」といった意見や、「落ち着く」、「のんびりゆったり」、「静か」といった地域の風土ともいべき意見が多くあげられている。

2.2 環境評価

2.3 自然環境の特徴

自然環境の特徴と問題点を以下にまとめる。

◇生物

1 ホタルの復活と高いシンボル性

ホタルの分布は、昔と今の分布状況の聞き取りでは際だった変化は見られないが、河川改修、水路改修、生活排水、農業などにより一旦減少したものが、近年、河川・水路内への堆砂、下水処理の普及、農業規制の強化などにより増加してきていると考えられる。なお、地域資源アンケートでは、ホタルを自慢できる資源としてあげる意見が多く見られた。

2 魚類の日本海とのつながり

既存の河川の生物調査では、アユ、ウナギ、カマキリ等のカジカ類、ゴクラクハゼ等のハゼ類など、海や汽水域を利用する多くの回遊型の淡水魚が確認されており、魚類に河川と海とのつながりが見られる。

3 環境の多様性ーブナ林、トウテイランなど植物の多様性ー

丹後地方には海岸、内陸、平地、丘陵、山地など、多様な環境を反映して多くの植物が見られる。海辺の砂浜には日本でも珍しいトウテイランを始めとした海浜植物が自生し、内山山系の約40haのブナ林には、300種以上の植物が自生している。

4 メダカの減少ー緩やかな流れの喪失ー

アンケートによる住民への聞き取りによると、過去には市全域でメダカが見られていたが、現在は大幅に減少している。これは、ほ場整備や水路・河川改修が進むことにより、淀みや流入する細流との連続性が失われ、メダカの生息できる緩流域が消失したことが主要原因と考えられる。

5 フクロウの減少ー里山の変質ー

過去には平地から山地にかけてフクロウが見られていたが、過去に平地部で見られていたものが現在では減少している。これは、フクロウの巣となる屋敷林や社寺林、里山の洞のある大径木が失われたこと、餌となるネズミなどの狩り場となる里山（林内が広く下草が少ない）の変質を示していると考えられる。

6 イノシシやシカの増加―獣害の増加と里山の暮らしの変質―

イノシシやシカは過去には山地部の一部などで見られていたが、現在では山地から人里に近い平地部にかけての広範囲に渡って見られ、その増加は顕著である。原因としては、植林等による実のなる樹の減少、里山や谷地田に人が入らないことによる人と獣の境界線の低下などが考えられる。

◇水環境

1 多くのため池―山際の水環境の豊かさ―

本市には約 200 箇所のため池が存在し、これらの多くが平地から山地への移行部に位置している。山林との連続性が保たれ流入水質が良好であると考えられることから、魚類はもちろんのこと、カエル類、サンショウウオ類、鳥類、水生植物等の貴重な生息空間となっていることが予想される。

2 良好な水質―宇川、福田川などの河川―

府の環境基準の類型指定では、竹野川が B に、宇川、福田川、佐濃谷川が A に指定されており、いずれも平成 15 年度の BOD の値は基準を満たしており、市内の河川の水質は概ね良好である。

◇山林

1 身近な山林―里山と田園の生き物の生息環境―

本市では、主要河川沿いに平地が形成されているが、三角州性低地の発達は小さく、谷が狭い。また、多くの谷筋が山地の中に入り組んでいるため、山林と平地（農地）の接する延長が長いという特徴がある。このため、里山と田園を行き来する生物に有利な環境がある。

2 豊かな山林―自然林やブナ林―

総土地面積に占める林野面積は 75.2%（37,715ha / 50,183ha）で、山林の構成についても人工林率は 26.9%で自然林（二次林含む）が多く、ブナ林も見られるなど、豊かな山林に恵まれている。また、そこから流れでる清らかな水を背景においしい米が生産できるといった意見もある。

3 山の荒廃

広大な山林を抱え、ブナ林など原生的な植生が残されている一方で、エネルギー源の転換や生活スタイルの変貌、林業の停滞などにより、里山の利用、山の手入れが滞っており、山が荒れている。このことは山に人の手が入ることによって保たれてきた里山の生態系の変質、イノシシやシカなどによる獣害の増加やアカマツ群落の衰退にも結びついていると考えられる。

◇景観

1 海岸部の豊かな景観－丹後松島、立岩、屏風岩など－

本市の海岸沿いには丹後松島、立岩、屏風岩などの名勝地が多く存在し、また海と里山と集落が調和した袖志の棚田も有名である。また、アンケートでは、海岸沿いの景観を取り上げる意見が多かった。

2 広いスケールでの景観－山からの日本海の眺め－

アンケート調査では、景観資源として、農地・農村に対する意見は少なく、兜山、権現山、愛宕山など山の上からの眺望、特に日本海を含めた眺望が素晴らしいという意見が多く、広がりのあるスケールの大きな景観が評価されていた。

2.4 社会環境の特徴

社会環境の特徴と問題点を以下にまとめる。

1 京阪神からの観光スポットー海浜、温泉、カニー

京阪神からの旅行・観光先となっているが、その目的は、海浜、温泉、カニ等海産物、史跡、社寺、森林公園、牧場、農業公園など、「自然」や「歴史」に基づくものが多い。また、アクセスに時間がかかるが、観光客にとっては「適度に遠い」ことも旅の条件となる、という意見もある。

2 歴史・文化資源が多い

古墳、神社・仏閣及びその所蔵品など、多くの歴史的な資源が存在する。また、アンケート調査でも多くの史跡、神社仏閣、祭りなど歴史的・文化的な資源に関する回答が多く見られた。地域ごとの祭りが多いことから、地域ごとの文化が守られ、コミュニティのつながりが保たれていると考えられる。

3 人口の減少

京丹後市の総人口は減少傾向にあり、平成2年を100%とすると平成17年で90.8%まで減少し、将来人口推計で当初予想されていた63,639人をすでに下回り、62,724人（国勢調査速報値）となっている。また、平成32年には79.8%の55,103人となることが予想され、今後はマンパワーの減少による地域の活力の低下が懸念される。

4 大都市圏からの遠さ

市中心部の峰山町から首都圏まで電車・新幹線を利用しても5時間以上、京都市内までは車でも2時間半以上かかり、大都市から遠く離れているという特徴がある。市町村合併前の住民意向調査では交通の便に対する不満が強かった。

5 産業の低迷・雇用条件の厳しさ

平成2年から平成15年の市内の総生産額の推移は、増減を繰り返しており、平成8年と平成15年の総生産額がほぼ同じになっている。町別では、大宮町が若干増加傾向にあるが、峰山町は減少傾向にある。その他4町については、ほぼ横ばいであるが、6町のなかでは丹後町と弥栄町の総生産額は低くなっている。

産業別の就業者数については、第3次産業が第2次産業を上回り48.7%で、第1次産業は10.7%となっている。住民意向調査では、雇用状況の厳しさ、農林漁業の振興が課題として強く認識されている。また、若者の定住意向が低い。

6 ゴミ問題

市内の海岸部には投棄や漂流によるゴミが多く、市民や観光客によるゴミ投棄も多い。
また、不法投棄や上流で捨てられたゴミを下流の住民が清掃しているという実態もある。
定期的な管理をせずに放置しておく、一層ゴミを投棄されてしまうという悪循環が生じている。

2.5 生産環境の特徴

生産環境の特徴と問題点を以下にまとめる。

1 新しい農業の動き－国営開発農地での新規参入－

国営農地開発地においては、平成 17 年には農業生産法人ワタミファームが農場開設をしており、また、地元建設企業による農業参入も行われている。さらに、農事組合法人百姓王国による大規模茶園の開設など、新規参入の動きもみられる。

2 市内の直売所－梨を中心とした果物など－

市内には約 40 の直売所があり、その数は全市的に増えている。直売所には、果樹に特化したもの、道の駅、地域を拠点としたものの 3 つのタイプがあり、その内容は農産物の加工販売や野菜、果物、花卉と多岐にわたる。最近では、丹後農業改良普及センターの呼びかけにより、市内の 10 の直売グループが共同マーケットを開催するなど、直売所のネットワークづくりが進められている。

3 各集落での活動

各集落における農産物の販売やボランティア活動、自然動植物の保護などの組織数は、市街地に近い地域では、全く活動を行っていない集落が目立ち、山間地に近い集落ほど、組織数の多い集落が目立ち、地域の活動が盛んであることがうかがえる。

4 農家戸数、農家人口の減少

本市の農家戸数（販売農家）は減少傾向にあり、平成 7 年から平成 17 年の 10 年間で 900 戸近く減少している。内訳は、専業農家は増加傾向にあるものの、第 2 種兼業農家の減少は著しい。

1980 年から 2000 年の農家人口の変動については、すべての集落で減少しており、久美浜町での減少率が他町と比べて小さく押さえられているものの、多くの集落が 50%以下に減少している。

5 高齢化の進行

平成 12 年の農業就業人口は、市全体で 4,759 人いるが、65 歳以上の高齢者が全体の 6 割以上を占めており、農業従事者の高齢化が進んでいる。

2000 年の農家人口における 65 歳以上の高齢者の割合は、市で 29.5%となっている。また、久美浜町と丹後町では 30%を超えており、他町と比較するとやや高い傾向にある。集落別の状況では、久美浜町、弥栄町、丹後町で 50%を超える集落が見られる。

6 耕地面積の減少と遊休農地の増加

経営耕地面積は平成 17 年で 3,593ha であり、平成 2 年の 4,072ha から 479ha（約 12%）減少している。

平成 17 年の耕作放棄地※農業センサス用語は 140ha（3.9%）で、耕作放棄をした農家は 955 戸（33.7%）となっている。特に丹後町、網野町の耕作放棄率、農家の割合が高くなっており、丹後町の耕作放棄した農家の割合は 41.5%、耕作放棄地は 4.1%、網野町では農家 39.9%、耕作放棄地 4.7%となっている。

国営農地開発事業で 690ha が新たに造成されたものの、遊休農地が生じるなど、経営耕地面積は減少傾向にある。

※耕作放棄地：所有している耕地のうち、過去 1 年以上作付けせず、しかもこの数年の間に再び作付けする考えのない耕地をいう。転作のため休耕している耕地で、今後作付けする考えのある耕地は含まない。

7 鳥獣被害の増加

鳥獣による農作物の被害は、年々増加する傾向にある。平成 10 年では 102ha であった被害面積が平成 14 年では 476ha と約 4 倍になっている。特にイノシシやシカによる水稻、豆類への被害、カラスによる果樹類への被害が目立つ。

8 高い食料自給率

本市の地域食料自給率（カロリーベース）は、平成 7 年で 93%、平成 14 年で 79%となっており 7 年間で 14%減少している。しかし、日本全体の 40%、京都府の 13%と比較すると高い自給率を維持している。旧 6 町の地域食料自給率では、久美浜町、弥栄町では 121%、117%と 100%を超えており、それ以外の町では 100%に達していない。平成 7 年から平成 14 年の 7 年間で旧 6 町全てが減少しており、6%～24%下がっている。